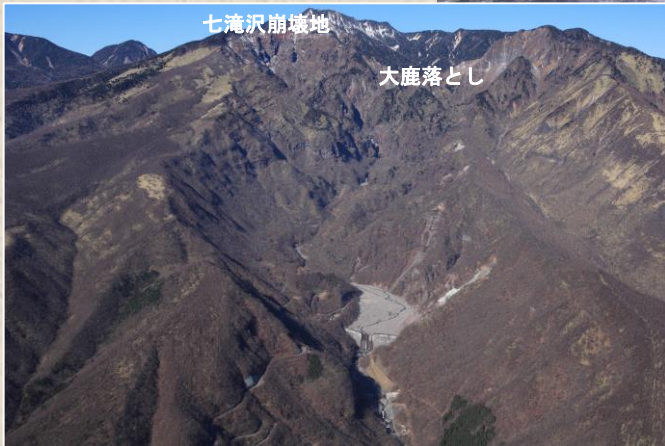


大鹿落とし

もっと知りたい？

女峰山

稲荷川源頭部

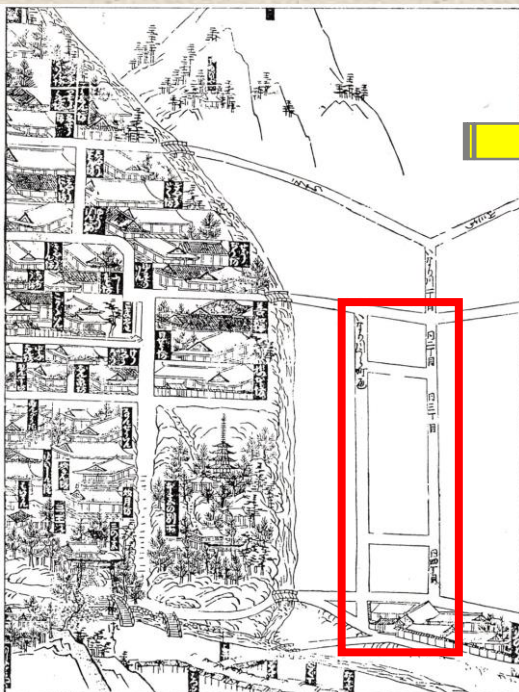


◆源流に崩壊地を抱える稲荷川

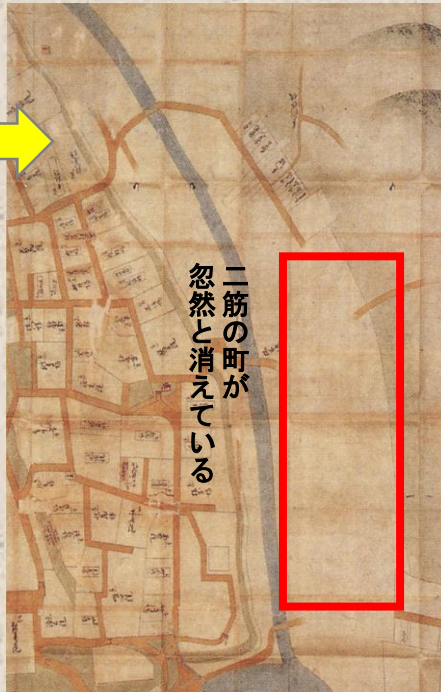
稲荷川の源流である女峰山には「七滝沢崩壊地」「大鹿落とし」という大きな崩壊地があります。中でも大鹿落としは、崩壊面積44ha、河床からの高さが約500m、崩壊土量は430m³とも推定され、現在も崩壊が続いています。源流に大きな崩壊地を抱える稲荷川は、しばしば土石流災害を起こす暴れ川として、古くから恐れられてきました。

◆寛文2年(1662)年の土砂災害

寛文2年の土砂災害は、大谷川・稲荷川合流地点で起きた、有史上最大規模と言われています。その規模は、町が丸ごと押し流されるほどの激烈なものでした。古い書物にも「赤薙から巨石が流れてきて山が震動した。300軒あまりの人家を押し流し、死者は男女あわせて300人あまりにも達した」と書かれています。



1653年の絵図



1662年災害後の絵図



世界遺産の二社一寺を含むエリアに有史上最大規模の土砂災害があったことはあまり知られていない



寛文2年の大洪水の犠牲者供養のために、翌年の寛文3年に建立された稲荷川水難供養塔